

1. 実況上の着目点

① 日本の東に高気圧があつて、東進。東日本～南西諸島では高気圧縁辺から湿った空気が流入し、1時間に15～20mmの雨量を解析。

② 500hPa -33℃以下の寒気を伴った5160～5400mのトラフが日本海中部にあり、このトラフに対応して前線を伴った低気圧が日本海北部を北東進。低気圧や前線の周辺では大気の状態が非常に不安定となっており、北～東日本日本海側では1時間おおよそ10～15ミリの雨量を解析、雷を検知。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の高気圧は26日夜には、日本のはるか東に移動する。1項②の低気圧は、発達しながら北東進し26日夜にはサハリン付近に進む。また、オホーツク海の閉塞点上で新たに低気圧が発生し、26日夜にかけて千島近海へ進む。これらの低気圧は、世代交代しながら北東進し、28日にかけてカムチャツカ半島付近まで進む。26日は低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本では26日は、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線の南側では下層暖気が流入するため雪解けが進む。積雪の多い所では26日は、なだれや融雪に注意。

② 2項①の低気圧や前線の通過後、日本付近は28日にかけて、冬型の気圧配置が強まり、500hPaで-30℃、850hPaで-9℃の寒気が西日本まで南下し、大雪となる所がある。北～東日本では28日にかけて、西日本の山沿いでは27～28日は、大雪による交通障害、着雪、なだれに注意。

③ 日本海では、26日朝までに地上のシアーラインが形成され、28日にかけて東日本日本海側に停滞する。シアーライン周辺では、大気の状態が非常に不安定となる。東～西日本では28日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北陸地方や東北地方日本海側では、26日は土砂災害に注意・警戒。

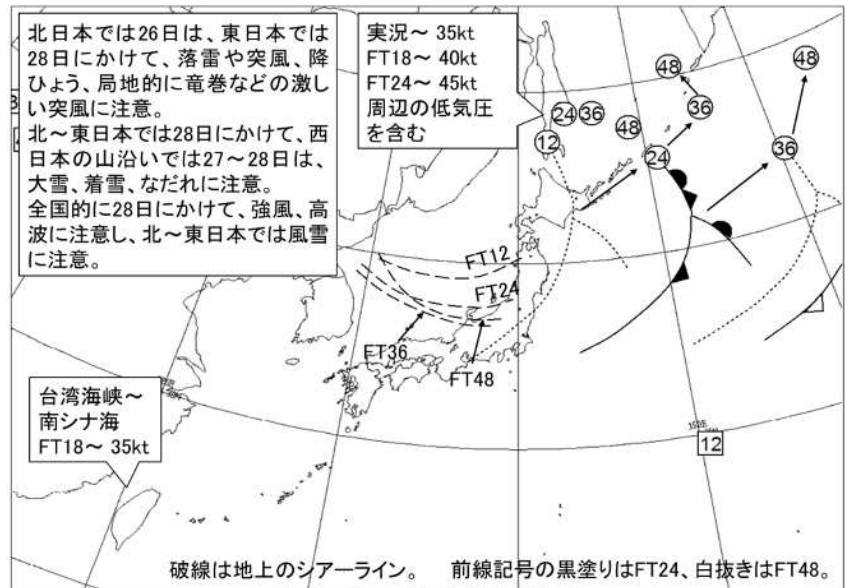
④ 2項①の低気圧や前線及び2項②の冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くしけとなる所がある。全国的に28日にかけて、強風や高波に注意し、北～東日本では風雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。
4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：東北40、北海道・北陸・東海30、関東甲信20cm。③ 波浪(明日まで)：東北5、北海道・北陸・伊豆諸島・近畿・中国4、関東・東海・九州北部・沖縄3m。④ 高潮(明日まで)：北日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。



主要じょう乱解説図